

インターナショナル新書

# 『データ農業が日本を救う』

窪田新之助 (農業ジャーナリスト)

定価: 本体 840 円 + 税  
 体裁: 新書判 / 224 ページ  
 発行: 集英社インターナショナル (発売: 集英社)  
 ISBN: 978-4-7976-8056-0

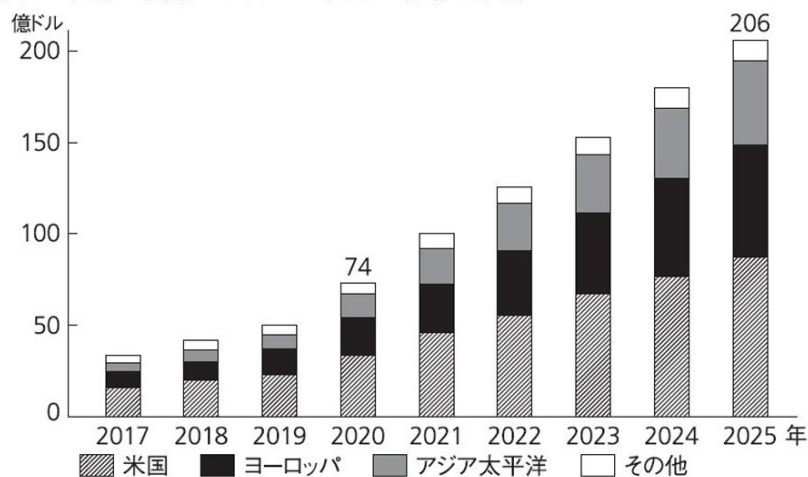


ポスト・コロナ時代、農業は  
**データ農業** に進化する。

**8月7日(金)発売!**

転換期にある日本の農業は、ポスト・コロナ時代にどうなる？ 作って農協に卸すだけの従前のシステムが大きく揺らぎ、生産・収穫の現場から流通・販売に至るまで、徹底的にデータを取り、活用する「データ農業」の時代が到来する。作物そのものの「生体データ」、成長に影響する温度、光、土質などの「環境データ」、それらを統合・管理する「管理データ」。オランダから北海道まで、それぞれの先鋭的な取り組みを取り上げ、日本農業の未来を探る。

図1 世界の農業ロボットマーケットの推移と予測



(注) 2020年以降は予想値

出典: Agricultural Robots Market Report



### 窪田新之助（くぼた しんのすけ）

農業ジャーナリスト。1978年、福岡県生まれ。明治大学文学部卒。2004年、日本農業新聞に入社。外勤記者として国内外で農政や農業生産の現場を取材。2012年よりフリーに。NPO 法人ロボットビジネス支援機構のアドバイザーを務める。2014年、米国国務省の招待でカリフォルニア州などの農業現場を訪れる。著書に『GDP4%の日本農業は自動車産業を超える』『日本発「ロボット AI 農業」の凄い未来』（共に講談社+α新書）などがある。

#### ——本文より——

データの活用が日本の農業をどう左右するか——まずはそれを知ってもらいたい。そのために日本とオランダを比較して見よう。1980年代、両国におけるトマトの単位面積当たりの収量はほぼ同じだった。それがこの40年で約7倍の差が生まれた。急激に伸ばしたのは残念ながら日本ではなくオランダ。今やオランダのトマトの10アール当たりの収量は約70トンと、世界でもずば抜けて高い。

#### ——目次より——

- 1章 データが農業をつくる時代
- 2章 進化する植物との対話
- 3章 農業から食産業へ
- 4章 下町ロケットは現実になるのか
- 5章 データのやり取りは世界標準の通信規格で
- 6章 ガラパゴス品種が世界で強みを発揮する

※ぜひ貴媒体にてご紹介をご検討いただけますと幸いです。  
書影、取材等、下記までお問い合わせください。



反収70トンをあげるオランダのハウス

#### 【本書のお問い合わせ先】

集英社インターナショナル

電話 03-5211-2630

公式サイト <https://www.shueisha-int.co.jp>